

学校教育目標		「伸びる 素直で 元気な 向東っ子」														
a ミッション		夢と志を抱き、グローバル社会を生き抜く向東っ子の育成 「信頼され信頼に応える向東小学校教育の創造」				a ビジョン				○「知・徳・体」のバランスの取れた児童を育てる学校 ○「コミュニティ・スクール」としての使命感溢れる学校「地域は学校のために 学校は地域のために」						
評価計画												自己評価		学校関係者評価		改善計画
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成率	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価		l コメント	m 改善案			
					達成値	達成値				イ	ロ					
知	○家庭・地域と協働し児童の学力を伸ばします。	基礎学力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レディネステスト、形成的評価を生かした教直しサイクルの実施</li> <li>・単元末及び学期末テストにおける国語及び算数の通過率 各65%以上 各30%未満</li> <li>・標準学力調査の同集団における昨年度偏差値との比較 「年度当初の数値49.6を基準（100）とする」（9月修正）</li> <li>・家庭学習の徹底</li> </ul>	85.2%	89.1%	92.1%	108%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末テスト及び学期末テストにおける65%以上の通過率、30%未満の通過率ともに、年間を通じて目標値を達成した。また、単元末テストで定着できていない内容を継続的に指導することで定着率が向上した。</li> <li>・30%未満の児童が全校で数あり、特に中学年において各学年が多い。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「分らなくても取り繕う習慣」を身に付けさせること大である。速く読める、自然で読解するなどの無さく、適切な姿勢を身に付けている。</li> <li>・教師の負担を増やさないために、学校の定着率に合わせた学習プログラムを準備し、児童の力を伸ばしている。ボランティアを始めることは必要と見ていないが、ボランティアの活用は必要と見ていない。</li> <li>・30%未満の定着率が低い児童については、個別に分析を行う。確かな定着しにくい児童は、保護者や関係機関と連携し、具体的な指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くべんタイムでは、単元末テスト等で定着が不十分な内容を重点的に復習させる。教員の指導配座を行った。学習支援ボランティアの支援を要するところ、個々の指導ができる時間を確保する。</li> <li>・30%未満の定着率が低い児童については、個別に分析を行う。確かな定着しにくい児童は、保護者や関係機関と連携し、具体的な指導を行う。</li> </ul>			
		主体的な学びを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な学びに関する児童アンケートの肯定的回答</li> <li>・学力調査の課題を解決する単元開発（カリキュラムマネジメント）</li> </ul>	+10ポイント	+8.1ポイント(5-6年)	+11.7ポイント	117%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントを行ったことは、単元を通して児童の主体的な学びを生起させることに有効であった。</li> <li>・課題解決に向けて、自分らの考えをもつことや、その考えを伝える手段が十分に身に付いていない児童が多い。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究により、興味や関心を持つ児童を増やして欲しい。</li> <li>・自分の学びを、自己評価させることが、良いと思う。ぜひ継続して行ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の開発単元は来年度も継続する。算数科に部活動を取り、授業の質を向上させることに、各学年2本の単元開発を行う。</li> </ul>			
	○家庭・地域と協働し児童の学力を伸ばします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・克服させた各種学力調査の課題を克服し、単元開発を行うことは、単元全体を通して課題解決のための手立てや指導方法を考えることができる。有効であった。</li> <li>・単元の「基本的な学力の定着が不十分で、自分の考えをもつことができずにいる児童が多い。</li> </ul>	+10ポイント	+24.3ポイント(3-5-6年)	+23.1ポイント	231%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・克服させた各種学力調査の課題を克服し、単元開発を行うことは、単元全体を通して課題解決のための手立てや指導方法を考えることができる。有効であった。</li> <li>・単元の「基本的な学力の定着が不十分で、自分の考えをもつことができずにいる児童が多い。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の負担にならないよう学習支援ボランティアを活用しながら進めたい。</li> <li>・積極的に、自分も進んでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップタム・くべんタイムについて、実施内容を計画で作成し、徹底した指導を行う。</li> </ul>				
徳	○家庭・地域と協働し児童の豊かな心を育みます。	規範意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業前、大休後においてヘルプスタートができた児童の割合</li> <li>・校内から校外へ広げる挨拶活動</li> </ul>	90%	93%	92%	103%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果、92%だった。</li> <li>・みんなが気持ちよく過ごすために、ヘルプスタートの徹底と挨拶を行うという行動を一人一人が心がけられるよう、各クラスでの担任からの声かけ、児童会活動を通じて児童が学んでいく。アンケート結果から、ヘルプスタートが十分できていないと感じている児童が8%いた。次の授業の準備をして（声掛けをもち）休憩する習慣が未定着な児童が多い。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識を育み、進んで主体的に考えて行動し、行動できる児童を育てて欲しい。</li> <li>・人間関係構築においても、進んで主体的に行動すること大である。さらには、個別にコミュニケーションの基本である。ほんとの子どもの挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律の基本ルールを4月に徹底し、6月までに定着させる。</li> <li>・児童会の挨拶運動を定期的に行う。</li> <li>・児童会で作成した「挨拶のレベルカード」を活用しながら、指導を継続する。</li> <li>・教職員が挨拶のモデルを示す。</li> </ul>			
		児童の自己肯定感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年交流活動の多様な展開</li> </ul>	80%	81%	84%	105%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果、90%だった。</li> <li>・異学年交流活動の結果、90%だった。</li> <li>・異学年交流活動の結果、90%だった。</li> <li>・異学年交流活動の結果、90%だった。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいつの行動を定着させるには、家庭との連携が重要である。PTAと協働で、保護者の理解と協力を得てほしい。</li> <li>・「ほんとの子ども」の挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。さらには、個別にコミュニケーションの基本である。ほんとの子どもの挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年交流活動の多様な展開を、児童会を中心とした主体的な活動になるよう指導する。</li> <li>・児童会のみならず、学習支援活動や各クラスの活動との連携を図る中で、つながり深めさせる。</li> </ul>			
	○家庭・地域と協働し自立できる児童を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年交流活動（縦割り前・ロング休憩・給食行事等）に係る児童アンケート肯定的評価</li> <li>・自己肯定感に係る児童アンケート肯定的評価</li> </ul>	80%	81%	84%	105%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果、84%だった。</li> <li>・異学年交流活動の結果、84%だった。</li> <li>・異学年交流活動の結果、84%だった。</li> <li>・異学年交流活動の結果、84%だった。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいつの行動を定着させるには、家庭との連携が重要である。PTAと協働で、保護者の理解と協力を得てほしい。</li> <li>・「ほんとの子ども」の挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。さらには、個別にコミュニケーションの基本である。ほんとの子どもの挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年交流活動の多様な展開を、児童会を中心とした主体的な活動になるよう指導する。</li> <li>・児童会のみならず、学習支援活動や各クラスの活動との連携を図る中で、つながり深めさせる。</li> </ul>				
体	○家庭・地域と協働し自立できる児童を育成します。	体力・運動能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50メートル走の進化（外部講師の活用と継続指導）</li> </ul>	37%	31%	45%	122%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果、79%だった。</li> <li>・児童会の児童が企画・実行して、10月に「ハンパツリノ木」の取組と、同年度学校の定着率から学年ごと、2月に1しめを各クラスで実施することができた。しかし、各クラスには自覚がないところが多いという否定的な自己評価をした児童が数人いる。自己肯定感が高い児童は増加定着しており、意図した支援の指導が必要である。また、児童アンケートの結果を十分に活用することができていなかった。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいつの行動を定着させるには、家庭との連携が重要である。PTAと協働で、保護者の理解と協力を得てほしい。</li> <li>・「ほんとの子ども」の挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。さらには、個別にコミュニケーションの基本である。ほんとの子どもの挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果を分析し、個に応じた指導に生かす。</li> <li>・児童アンケートだけではなく、児童の作文等の状況から定着率の評価をする場面を共有しようとする。</li> </ul>			
		自立した生活習慣を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50メートル走の進化（外部講師の活用と継続指導）</li> </ul>	50%	23%	55%	110%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果、79%だった。</li> <li>・児童会の児童が企画・実行して、10月に「ハンパツリノ木」の取組と、同年度学校の定着率から学年ごと、2月に1しめを各クラスで実施することができた。しかし、各クラスには自覚がないところが多いという否定的な自己評価をした児童が数人いる。自己肯定感が高い児童は増加定着しており、意図した支援の指導が必要である。また、児童アンケートの結果を十分に活用することができていなかった。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいつの行動を定着させるには、家庭との連携が重要である。PTAと協働で、保護者の理解と協力を得てほしい。</li> <li>・「ほんとの子ども」の挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。さらには、個別にコミュニケーションの基本である。ほんとの子どもの挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施した中学校の教員による専門性の高い授業を来年度も継続して行う。また、学校全体として統一した指導が行われるよう、今後研修を計画する。</li> <li>・継続して行っている向東っ子体操の習得を行い、児童の課題に合わせた内容の指導を行う。休憩時間の遊びの中で体力の向上を図ることが出来るよう、遊びの趣を設定する。</li> </ul>			
	○家庭・地域と協働し自立できる児童を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50メートル走の進化（外部講師の活用と継続指導）</li> </ul>	37%	31%	45%	122%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果、79%だった。</li> <li>・児童会の児童が企画・実行して、10月に「ハンパツリノ木」の取組と、同年度学校の定着率から学年ごと、2月に1しめを各クラスで実施することができた。しかし、各クラスには自覚がないところが多いという否定的な自己評価をした児童が数人いる。自己肯定感が高い児童は増加定着しており、意図した支援の指導が必要である。また、児童アンケートの結果を十分に活用することができていなかった。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいつの行動を定着させるには、家庭との連携が重要である。PTAと協働で、保護者の理解と協力を得てほしい。</li> <li>・「ほんとの子ども」の挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。さらには、個別にコミュニケーションの基本である。ほんとの子どもの挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施した中学校の教員による専門性の高い授業を来年度も継続して行う。また、学校全体として統一した指導が行われるよう、今後研修を計画する。</li> <li>・継続して行っている向東っ子体操の習得を行い、児童の課題に合わせた内容の指導を行う。休憩時間の遊びの中で体力の向上を図ることが出来るよう、遊びの趣を設定する。</li> </ul>				
性	○文化の発信基地となり地域の発展に寄与します。○教職員が日々成長するよう行動します	コミュニティスクールとしての実践を通して、保護者・地域からの信頼を獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への発信に関する児童アンケート(4-6年)における年別初めの比較(4月)</li> <li>・「年度当初の数値89.7%を基準（100）とする」（9月修正）</li> </ul>	+5ポイント	+2.2ポイント(5-6年)	-	-	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の住んでいる地域が好き」の項目が2.3%アップし、年間目標を102%達成した。</li> <li>・「自分の住んでいる地域が好き」の項目が2.3%アップし、年間目標を102%達成した。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域がすべてを担うのではなく、子どもたちに考えさせ、役割を委ねて、しつと守りながら進んでいくことが必要である。</li> <li>・この地域での環境が、安全・安心として、自己能力の育成に良いと思う。知らないで安心できる環境である。学習支援活動や各クラスの活動を通して、地域の方とのつながりを実感している。より安全・安心の環境を育んでいく。さらには、個別にコミュニケーションの基本である。ほんとの子どもの挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。さらには、個別にコミュニケーションの基本である。ほんとの子どもの挨拶が出来るようになることは、大変素晴らしいことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や関係機関と連携し、具体的な指導を行う。</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP、学校便り、CS便り、学年便り等による積極的な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会、保護者アンケートによる肯定的評価</li> </ul>	80%	91%	93%	116%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート調査によると、概ね、肯定的評価は80%を超えている。縦割り班活動や、地域のボランティアの方々に関わっていたという活動については、保護者も肯定的に捉えている。</li> <li>・+10%を目標値とする情報発信については、学年間の取組に差があることや実施に役立つ情報として早期に提供できていない。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が関わることばかりと聞かれますが、本来地域の信頼を育み発見していくには、保護者や関係機関と連携し、具体的な指導を行う。</li> <li>・学校運営協議会、保護者アンケートを通じて、人との関わりを直接感じられるよう具体的な取り組みを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年だよりより2回発行を原則とし、単なる案内ではなく、児童の状況を的確に保護者に伝えることには留意する。</li> <li>・情報発信の活用を、積極的に活用して、子どもたちの成長を促すこと大である。</li> </ul>			